

そのクリックは危険です！ 被害にあった10代20代の若者たち



高校生
阿部君(仮名・17歳)



高校生
伊藤君(仮名・17歳)



中学生
上野君(仮名・15歳)



大学生
加藤君(仮名・20歳)



大学生
北山君(仮名・21歳)

中学生以上・一般
(10代 20代)向け
約18分

アダルト情報サイト、出会い系サイト— 若者に忍び寄るインターネット上の危険な罠！
被害にあわないためのポイントをわかりやすく説明しています。

被害多発！危険なクリック 20代30代をねらうネットの罠



フテック店員
佐久間さん(仮名)の場合



会社員
柴田さん(仮名)の場合

一般(20代 30代)向け
約19分



会社員
秋葉さん(仮名)の場合



大学生
桜井さん(仮名)の場合

SNSを介した詐欺・誹謗中傷—
出会い系高額商法・サクラサイト商法—



会社員
高橋さん(仮名)の場合

アフィリエイト詐欺—
事例をもとに インターネットをとりまく危険から
身を守る方法を紹介！

企 画 意 図

スマートフォンの普及と共に、手軽に利用できる無料電話サービスや、SNS（インターネット上で日記やメッセージなどを通じて、友人や知人・共通の趣味を持つ人たちとの交流を目的としたサービス）が普及しました。しかし、これらのサービスによって、犯罪に巻き込まれてしまうケースが急増しています。特に、携帯電話を持ち始める中学生や高校生などの青少年、また、主なユーザー層である20代、30代の人々が、被害者だけでなく、加害者になってしまうといったケースも出ています。

これらの作品では、青少年向け、成人向けとして、SNSトラブルの代表的な事例を具体的に見せながら、その予防法と対処法を紹介します。大人たちが子供たちに伝えるべきこと、また、そのために大人たちが知るべきことを中心に、事例の解説やトラブル予防、対処のポイント、指導のポイントなどについてまとめています。

中学生以上・一般
(10代20代)向け

そのクリックは危険です！

—被害にあった10代20代の若者たち—

■SNSの罠■ SNS利用者は、2015年末には約65%まで伸びるといわれている。しかし、それにまつわる犯罪も増えており、その被害者の多くは10代から20代の若者である。

■アダルト情報サイト■ 特に多い、アダルト情報サイトに関わる3つの事例を見ながら、具体的な防止策と対策を説明する。

■出会い系サイト■ 迷惑メールやSNSの誘いから、意図せず出会い系サイトに入り、料金を請求されるケースや、サイト利用経験者が二次被害にあうケースも目立っている。その事例を紹介する。

■サクラサイト商法■ 『サクラサイト商法』(サイト業者に雇われた『サクラ』が、消費者をうまく信用させだまし、金銭の支払いを続けさせる詐欺商法)も頻発している。

■SNSに対する心構えとは…■ 専門家は、「SNSは知らない人とやりとりできる魅力的な空間である反面、相手の素性がわからないため、予想外の事も起こる。」と話す。自分のプライバシーは自分で守り、少しでも怪しいと思ったら、近くの消費生活センターや弁護士会、警察署などに相談することを強く訴える。

一 般
(20代30代)向け

被害多発!危険なクリック

—20代30代をねらうネットの罠—

■SNSの罠■ SNSの利用が進む一方で、様々なトラブルが増えている。SNSを利用した個人へのストーカー行為、家族への誹謗中傷などの例を検証し、具体的な解決策を紹介する。

■出会い系・高額商法の例■ 有料サイトを利用し、その後、高額な定額制に移行され、請求された事例を見て、対処法を説明する。

■出会い系・サクラサイト商法■ ネットで親しくなり、巧みに金銭を支払わせる事例、初めはお金をもらえらると思わせた後、別な弁護士サイトとかたって誘い込み、高額な利用料金を請求する詐欺を紹介し、それらの対策を考える。

■被害にあわないポイント■ 専門家の意見を交えながら、「①サイト利用のきっかけとなる迷惑メールなどには絶対に返信しない。②サイトへの登録や一定期間の利用が無料であっても、途中から有料となるサイトが多いので注意する。③サイトに身分証明などの提示を求められても、氏名・住所などの詳細な個人情報を安易に出さない。」ことを訴える。また、アフィリエイト詐欺の仕組みについてもふれ、だまされないように心がけるポイントを整理する。

DVD [カラー18分]

ライブラリー価格

本体 ¥65,000 +税

学校価格 (中学校・高校のみ)

本体 ¥33,000 +税

2014年・映学社作品

DVD [カラー19分]

ライブラリー価格

本体 ¥65,000 +税

2014年・映学社作品

監修 一般財団法人インターネット協会 大久保貴世

制作・著作

株式会社 映学社

企画・制作統括 高木 裕己

脚本・演出 小林 利造

コーディネーター 斎藤 晃顕